

中学校区におけるめざす子ども像 自分も人も大切にできる子どもたち 主体的に考え行動できる子どもたち ~「時を守り 場を清め 礼を正す」ことを通して~

令和7年度 重点目標

- ◎人材の育成： OJTを通して（学校全体） ○学習規律の構築と、人権教育の推進（全学年） ○いじめや不登校の未然防止と、学びの機会の確保（全学年） ○健やかな体の育成と、子どもの安全確保（全学年）
 ・『根拠をもって伝える力』の育成と、ICTの効果的な活用の研修（研修委員会） ・人権意識を高め、多様性を認め合える人間関係の形成（研修委員会） ・暴力やいじめを許さないという、人権意識や規範意識の醸成（生活指導委員会）
 ・いじめ不登校対策委員会での、組織的な早期支援体制の実践（生活指導委員会） ・狭い運動場での工夫した持続可能な体育・保健教育活動の実践（保育給付委員会） ・安全教育・防災教育・食育指導の推進と、安全が担保される環境整備（保育給付委員会）

「確かな学び」の現状

令和6年度の「全国学力・学習状況調査」および大阪府の「すくすくかげ」の結果からは、比較的安定した学力が定着していることが確認できた。しかし、根拠をもって、自分の言葉で思いや考えを伝えるという点ではまだ課題が見られる。また「学びのコンパス」の理念実現のため、学びを深める姿の共通理解を図る必要性が高まっている。そこで、今年度の研究主題を「自分の考え方や思いを根拠をもって伝え合うことができる子どもの育成～伝え合うことで学びを深める姿をめざして～」とし研究授業を行い、実践を通して検証を進めていく。公開する場面は、教科を固定せず主題に沿った提案が最も効果的に表れる授業場面で行う。このような取組を通して、より「確かな学び」の定着を図っていきたい。

「豊かな心・健やかな体」の現状

本校の学校教育目標は「学び合う子 助け合う子 たくましい子の育成」である。高い人権意識を醸成するためにも「相手の立場を思いやり、豊かな心や秩序を重んじる」「社会性を身につけるための規範意識の育成を進める」「いじめを許さないという人権意識の醸成」を中心に指導を行う。豊かな心の育成に必要不可欠なのは、いじめや不登校の早期発見・早期解決である。指導の重点として①積極的な生徒指導と不登校対策委員会の積極的な活用、②不登校（傾向のある）子どもへの学びの機会を確保、③非行防止・犯罪被害防止教室など堺少年サポートセンターと警察署との連携、の3点を掲げ実践していく。「みんな」「体力向上」についても、生活習慣へ働きかけ意識を高めていく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～10月)	達成状況（年度末）	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	ICT	ICTを活用した各学年で定められた情報活用能力の知識及び技能の習得	ICTを活用した学習展開の工夫をめざし、研修や授業研究に取り組む	・「ゲートを活用した授業ができる」の肯定的評価80%以上	教員アカト	12月	○	日々の授業の中で、教科を問わず、タブレットを使用した授業が展開されている。より効果的な活用については、研究授業等での活用機会を通して検証していく。	
			児童1人1台パソコン活用推進のため、情報活用能力や情報モラルを育む授業を実施する	各学年での目標について「できている」肯定的評価80%以上	学校教育アカト	12月	○	活用を促していくためにマナーや情報モラルについて生指面も含め指導中である。	
	人権教育	相手の立場にたって自ら考え、行動できる児童の育成	全学年で系統立てた道徳と人権の授業を行い、ど子も安心して学校に通えるように、相手を思いやる気持ちを涵養する	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定的評価85%以上	学校教育アカト	12月	○	担任団が協力して「交換道徳」を実施するなど工夫をし道徳授業の内容の充実を図っている。授業後の情報交換も含め児童理解が深まっている。	
	授業づくり	自分の考え方や思いを根拠をもって伝えることができる児童の育成（小中一貫グランドデザインに基づく）	●★低・中・高学年ごとに定めた伝える力の目標をめざした授業研究に取り組む	「児童が自分の考えを伝えられるよう指導致法の工夫を行った」の肯定的評価80%以上	教員アカト	12月	○	各学年1回ずつ研究授業を実施。その都度の協議会、教育委員会指導主事の指導をいただくことで研鑽を深めている。	
			★話し方・聞き方の型を用いて伝える力の基礎の定着を図る	「クラスやグループ・ペアで話すときは、自分の考えを伝え、友だちの意見もしょっちり聞いている」の肯定的評価80%以上	学校教育アカト	12月	△	研究授業テーマ「根拠をもって伝える」を実現するため「話し合い」から「対話」をめざして工夫を続けている。成果については今後の検証が必要。	
			★学校生活全体を通した「伝える場」を設定し、伝える習慣をつける	「学校生活の中でクラスやグループ、ペアで話すことができた」の肯定的評価80%以上	学校教育アカト	12月	○	「伝える場」づくりは授業の中でも定着してきている。内容の充実のため「何のために話し合い?」「話し合った後の変化はあったか?」など効果を検証していく。	
豊かな心	人権感覚	一人ひとりを尊重し、温かい人間関係づくりができる児童の育成	いじめについての正しい知識をもたせ、生活のなかで活かせるようにさせる	「いじめられている子を助けたいと思う」についての項目で肯定的評価80%以上	学校教育アカト	12月	○	学校生活中で担任を中心に教師団がいじめに対しての意識を高くもち「いじめアンケート」などの子どもの声にはすぐに対応するように努めている。	
	規範意識	自分も他人も大切にし、率先してあいさつができる児童の育成	●学校のきまりを職員全員が共通理解し、児童に発信することにより、規範意識の醸成を図る	「学校のきまりを守っている」の肯定的評価80%以上	学校教育アカト	12月	○	各学年から選ばれた生指委員会の先生を中心に行きまりについて随時見直しをし指導がぶれないように配慮している。	
			教師の率先垂範とあいさつ週間の充実により、あいさつの励行を進める	「学校で先生や友だちに自分から進んであいさつをしている」の肯定的評価80%以上			○	低学年を中心に、朝は元気な挨拶の声が響いており、刺激を受けた高学年も声が出るようになってきた。挨拶強化週間などの取組も意識向上に役立っている。	
健やかな体	健やかな体づくり	健康な体づくりを主体的に考え、実践する子どもの育成	●栄養教諭と担任等が連携して食育を行い、食の大切さを知らせ、朝ごはんの定着と給食の残量減をめざす	学校教育アカト（保護者）「あてはまる」85%以上 1学期より残量を減らす	学校教育アカト 堺市残量調査	1月 6月・11月	○	栄養教諭が学年に応じた指導をするとともに給食時の教室見回りにより給食を頑張ろうとする雰囲気づくりに努めている。	
			児童一人ひとりが個々の課題を知り、自ら実践する力を育成するために「おうち体育」を進める	「おうち体育を使って、体力づくりをしている」の項目での肯定的評価80%以上	学校教育アカト	1月	△	児童数の増加もあり、狭い運動場での体育・体力づくりには課題が多い。おうち体育の充実や啓発を図りたい。	

校長より（年度末）

学校関係者評価者から（年度末）